



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

2020年8月23日 年間第21主日A年

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書22章19-23節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 11章33-36節

福音朗読：マタイによる福音書16章13-20節

今日のテーマ：神の救いの想い・計画

三つの朗読から

第一朗読の「ダビデの家の鍵」（イザ 22 章 22 節）、福音朗読の「天の国の鍵」（マタ 16 章 19 節）、これが二つの朗読をつなぐことばとなります。

今日の第一朗読は第一イザヤ（『イザヤ書』1-39 章）から取られています。22 章ではエルサレムについての神さまのことばが記されていますが、前半（1-14 節）ではバビロンの王ネブカドネザルによるエルサレムの崩壊（紀元前 587 年）の宣告が告げられます。今日の朗読箇所を含む後半（15-25 節）ではアッシリアによるエルサレム包囲の際（紀元前 701 年）にはヒゼキヤ王の側近シェブナの地位はエルヤキムに取って代わられると告げられています。

第二朗読ですが、パウロには心配がありました。それは救いの計画からもれてしまったイスラエルの同胞の運命についての心配でした。しかし、今日の朗読箇所では「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか」（11 章 33 節）と神を賛美しています。このようなところの変化をもたらしたのは、パウロが神の救いの想い・計画に触れたからです。パウロは次のように考えています。ユダヤ人がキリストを否定し神への不従順に陥ったおかげで異邦人に救いの福音が伝えられ、異邦人が救いに招かれた。その事実に触れたユダヤ人は恐らく奮起して、キリストに近づくことで神の憐れみに身を寄せ

せるようになるだろう。こうしてすべての人が救われるであろう。今日の朗読箇所は神の富と知恵と知識の深みを「なんと深いことか」(33節)と感嘆しています。

福音朗読はこの数週間の福音のまとめとなります。数々の奇跡を行い、ファリサイ派と律法学者たちの欺瞞を指摘したイエスさまをお弟子さんたちは間近で見て、「神の子」(14章33節)と告白します。彼らはイエスさまがどなたであったかが分かってきたようです。今日の福音では、イエスさまがお弟子さんたちに「わたしを何者だと言うのか」(16章15節)と直接聞いてきます。ペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」(16節)と父なる神さまからインスピレーションをいただいて答えます(17節)。

みことばのあじわい

今日の三つの朗読はどれも難しいです。しかし、朗読の背景に見え隠れするのは神さまの救いの想い・計画です。それを深く感じたのはパウロでした。「誰が……であるうか」という表現を三回繰り返しながら、神の深い想いに疑いを挟むことの愚かさを強調しています。第一朗読でエルヤキムに与えられた「ダビデの家の鍵」(イザ22章22節)は、具体的にペトロにイエスさまから与えられました(マタ16章19節参照)。なぜペトロにそれが与えられたのでしょうか？ 分かりません。いえ、なぜペトロは「あなたはメシア、生ける神の子」(16節)と答えることができたのでしょうか？ ペトロはイエスさまのことをよく分かっていたから答えられたのでしょうか？ 「このことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」(17節)とイエスさまがおっしゃっていますから、神さまの想いがペトロを通して実現していったのでしょうか。岩の上に建てられた教会(18節参照)。この教会を通じて天の国の門がすべての人に開かれます。「天の国の鍵」(19節)はペトロによって教会に与えられたのです。こうして、教会を通じて神さまの救いの想い・計画は実現していきます。

ところで、「窮め難い」(ロマ11章33節 フランシスコ会訳)神さまの知恵、想い、ご計画とは、「神のはからい」と言い換えてもよいでしょう。難しくは「神の経綸」ともいいます。神さまの救いのデザインです。どんな被造物に対しても神さまは、この被造物が救われますようにという想いを持っておられます。神さまのお心の中に、ある救いのデザインがあるのです。このデザインを実現していくのは、教会の役目であり、人間の使命となります。しかし、時として人は、自分自身の想いを神の想いだと考えてしまいます。